

日本版ISAの道 その63

証券会社がこぞって力を入れるNISAを活用した投信の積み立てのリターン/リスクをベンチマーク別に、さらに、最も悩む「やめ時」も考慮し、最新6月末にかけて検証。

※国際投信投資顧問 投信調査室がお届けする、日本版ISAに関する情報を発信するコラムです。

麻生財務相の NISA 非課税枠拡充案は、毎月 20 万円ずつの投資で年 240 万円！

NISA が始まり 6 カ月が経過した。その中、2014 年 7 月 1 日付日本経済新聞は「財務相がNISA拡充に意欲 非課税枠、年 240 万円検討」という見出しの記事が出た(URL は後述[参考ホームページ])。その一部を下記する。

「麻生太郎財務・金融相は1日、少額投資非課税制度(NISA)の拡充に意欲を示した。年 100 万円の非課税枠を 240 万円に増やすことなどを検討する。…(略)…。麻生財務相は1日の閣議後の記者会見で、NISAの非課税枠は「次考えるなら、年 240 万円が現場に合っている」と述べた。毎月 20 万円ずつの投資を想定し、年 240 万円の非課税枠を挙げた。甘利明経済財政・再生相も非課税枠を 200 万円にする案を主張している。税制を所管する麻生財務相が拡大に言及したことで、具体化へ向けた作業が加速しそうだ。…(略)…。拡充策は今後、政府・与党で議論し年末にまとめる 2015 年度の税制改正大綱に盛り込む予定。早ければ 16 年から拡充する。…(略)…。」(下線は筆者)～以上が記事。

2014 年 7 月 4 日には菅義偉(すが・よしひで)官房長官が NISA の限度額について「首相は 300 万円にこだわっている」と言うなど、引き続き注目されている(その他、6 月 28 日には甘利明経済財政・再生相が「200 万円に拡大してもいいのではないかと」言っている)。200 万円になるか 300 万円になるかは、まだわからないが、ここでは麻生太郎財務・金融相の言う 240 万円に注目したい。麻生太郎財務・金融相は 7 月 1 日の記者会見で、NISA の利用者について「だいたい毎月 10 万円ずつというふうな積立預金みたいな感覚で、まずはそういうものと、NISA に移っておられる方が多い」と発言、NISA の平均買付額が約 60 万円についても「12 カ月掛ける5万円で年間 60 万円の口座が非常に多くなっているというのは、そういう理由ではないかと思えます。」と言っていた(*60 万円…2014 年 3 月末時点で日本証券業協会調査によるもの～URL は後述[参考ホームページ])。

このように、NISA の拡充策が検討される中で、積立投資を意識したケースもある。最近のメディアでも「証券会社がこぞって力を入れるのが NISA を活用した投信の積み立てだ。」(2014 年 7 月 6 日付日経ヴェリタス)などの報道がある。ただ、NISA の資産形成層に向いていると言われる積立投資(時間分散)だが、どういった資産に投資するとどの様なリターン/リスクになるのかが分かりにくい。そこで今回は、この、証券会社がこぞって力を入れる NISA を活用した投信の積み立てのリターン/リスクをベンチマーク別に、さらに、最も悩む「やめ時」(後述)も考慮し、最新 6 月末にかけて検証する。



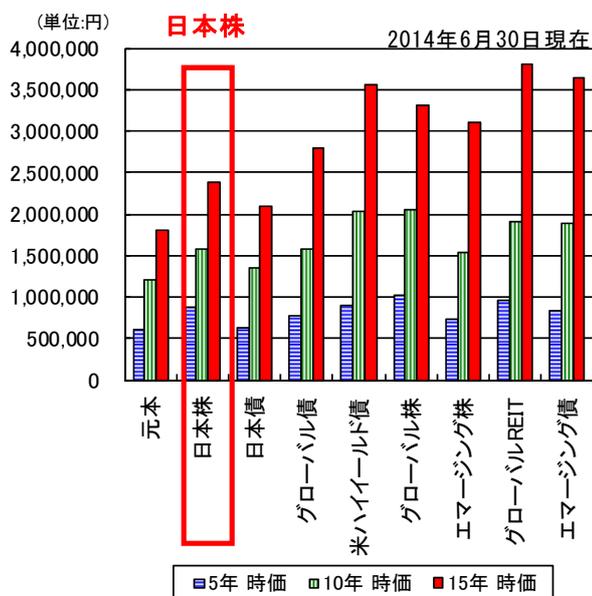
多様な資産を多様な積立期間(5年・10年・15年)と多様な売却時点で確認

検証は、毎月末に1万円ずつ積立購入してきたケース、つまり、毎月1万円定額の積立(ドルコスト平均法)を、投信に使われることの多いベンチマークで見る。NISAの年間上限は100万円で、単純に12で割ると月8.3万円程度だが、ここでは分かりやすく(若者や働く世代にもより現実的な金額である)1万円としている。それを5年、10年、15年という3つの投資期間について見ている。

まず下記グラフ①は左が2014年6月30日時点の時価で、右が2014年6月30日時点の損益(*手数料等は無視)である。2014年6月30日までの5年積立ではグローバル株が最も良く、10年ではグローバル株と米ハイイールド債、15年ではグローバルREIT、次いでエマージング債、米ハイイールド債が他の資産と比べてリターンが良かった。各種アンケート調査によるNISA経由の投信購入で、人気の投資先とされる分配金の多いREITファンドや、NISAも含む日本の投信全体で人気の高いハイイールド債ファンドのリターンの高さが示されている。

グラフ①

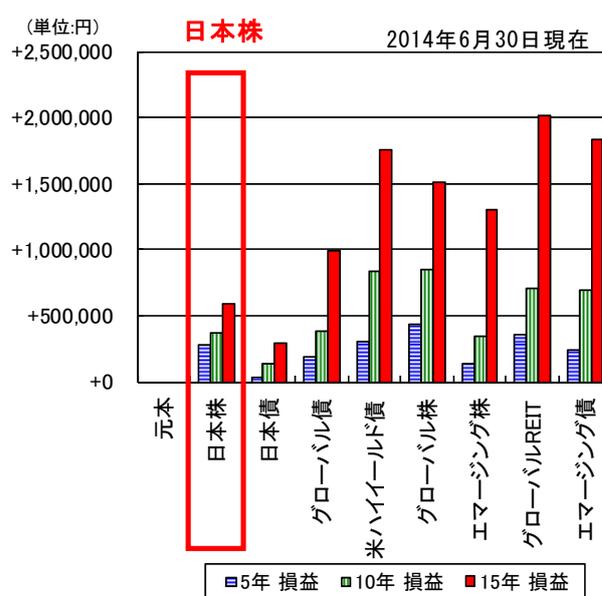
2014年6月30日 まで毎月末に10000円ずつ購入した時の現在の時価 *左から投資期間 5年・10年・15年。



(出所:ブルームバーグより国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

投資期間5年・10年・15年

2014年6月30日 まで毎月末に10000円ずつ購入した時の現在の損益 *左から投資期間 5年・10年・15年。



(出所:ブルームバーグより国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

続いて売却時点を変える。「コツコツ投資の最大の悩みどころは『やめ時』だ。時間がたてばたつほど、運用資産の規模は膨らんでいく。」(*コツコツ投資…積立投資のこと~2014年7月6日付日経ヴェリタス)との視点も考慮、売却時点も変えて検証するという事だ。上記の2014年6月末に加え、2013年から2006年の各年末、計9つの時点で見ることにする。次頁上段グラフ②が投資期間5年のもの、次頁下段グラフ③が10年のもの。

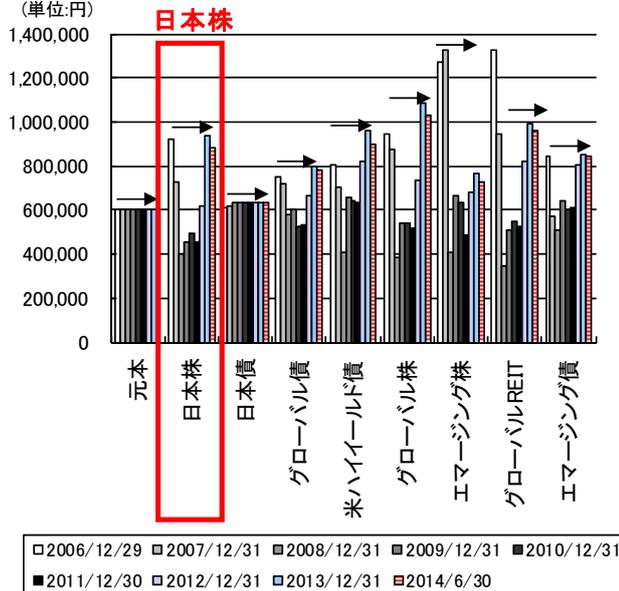
次頁上段グラフ②の通り、5年間、毎月積み立てた場合、2006年および2007年末に売却するならばエマージング株とグローバルREITはとても良かった。しかし、リーマン・ショック(2008年9月15日以降)後、大半の資産は損失となり、2012年以降回復、2013年においては、2006年や2007年ほどではないが利益が拡大している。大手証券会社やネット証券がNISA口座買付けランキングにおいて投信積立部門の売れ筋1位に紹介する事が多い日本株を見てみると、2008年から2011年の年末まで損失、2012年によりやくプラス転換、2013年の株高で大きな利益となった(*6 大手証券会社やネット証券がNISA口座買付けランキング…URLは後述[参考ホームページ])。

投資期間 5年

グラフ②

毎月末に10000円ずつ5年間購入した時の 時価

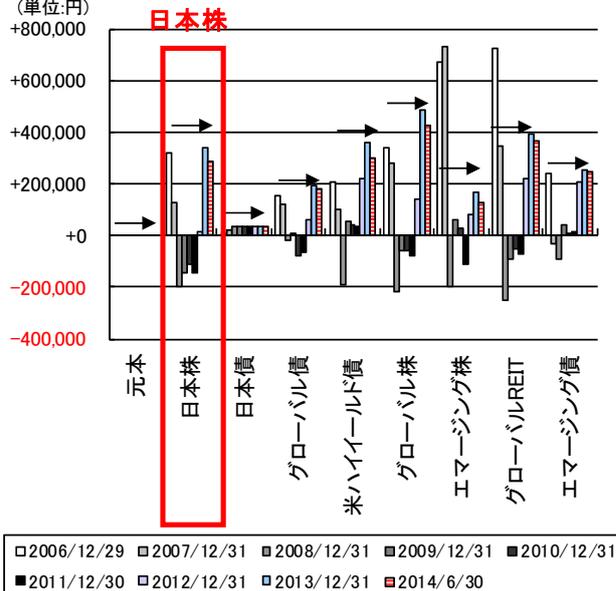
*左から2006年末、2007年末、2008年末、2009年末、
2010年末、2011年末、2012年末、2013年末、2014年6月末。
(単位:円)



(出所: ブルームバーグより国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

毎月末に10000円ずつ5年間購入した時の 損益

*左から2006年末、2007年末、2008年末、2009年末、
2010年末、2011年末、2012年末、2013年末、2014年6月末。
(単位:円)



(出所: ブルームバーグより国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

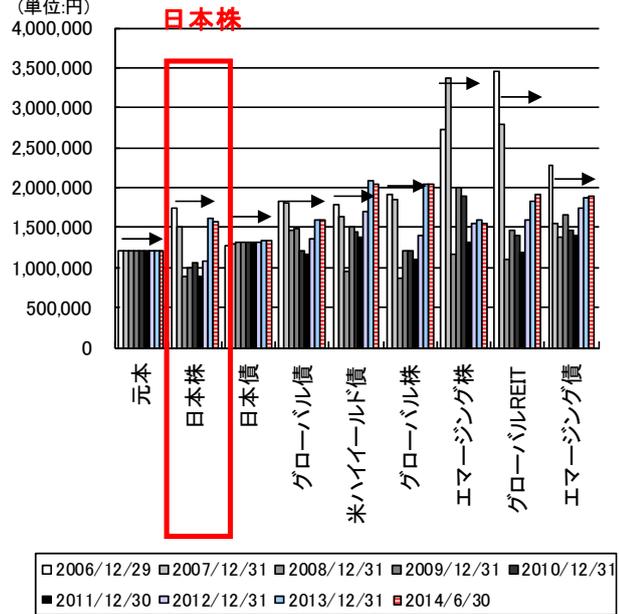
下記グラフ③の10年では、上記5年に比べ全般的に利益が増えてくる。エマージング債は5年では時期によっては利益や損失を出していたが、10年投資すれば、いずれの時期でも利益を出している。グローバル債は利益の安定度を増す。日本株は、2008年から2012年の年末まですべて赤字であったが、2013年に黒字化した。

投資期間 10年

グラフ③

毎月末に10000円ずつ10年間購入した時の 時価

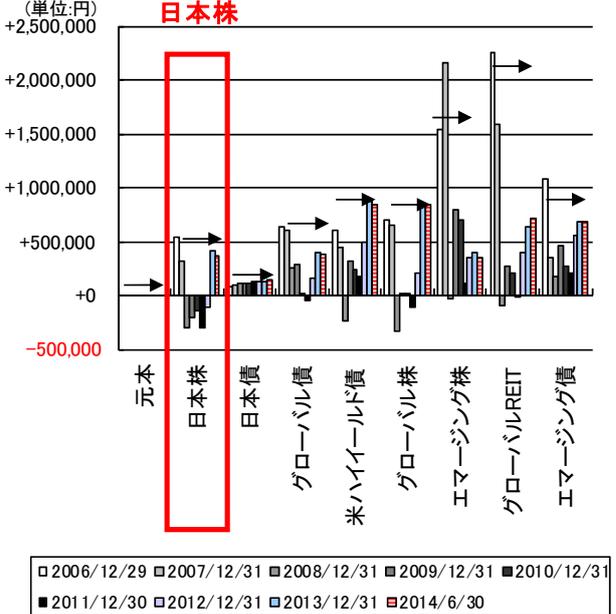
*左から2006年末、2007年末、2008年末、2009年末、
2010年末、2011年末、2012年末、2013年末、2014年6月末。
(単位:円)



(出所: ブルームバーグより国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

毎月末に10000円ずつ10年間購入した時の 損益

*左から2006年末、2007年末、2008年末、2009年末、
2010年末、2011年末、2012年末、2013年末、2014年6月末。
(単位:円)



(出所: ブルームバーグより国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

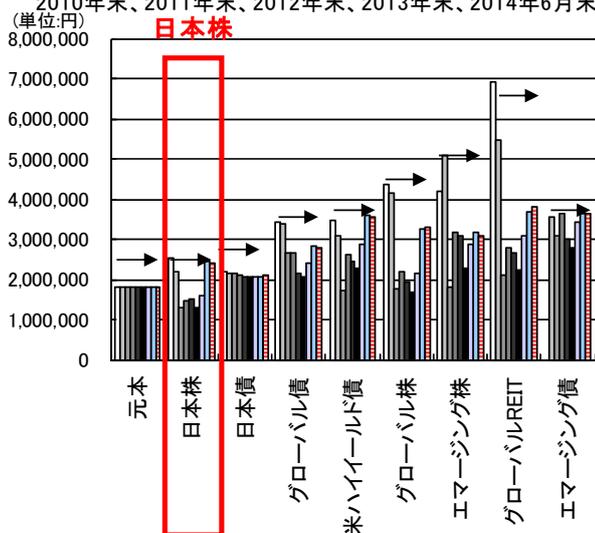
そして下記グラフ④が15年である。大半の資産でリターンが黒字化傾向がより鮮明となっている。エマージング債が安定的に高い利益で、いずれの期間でも利益となった。前述したNISA口座ランキングで投資信託部門・買付件数1位のリートファンド(グローバルREIT)は、エマージング債同様、いずれの期間でも利益となったが、エマージング債を大きく上回る利益の年もあれば、エマージング債より利益の小さい年もあった。グローバル債や日本債も利益こそ小さいが、やはりいずれの期間でも利益で安定的であった。

グラフ④

投資期間 15年

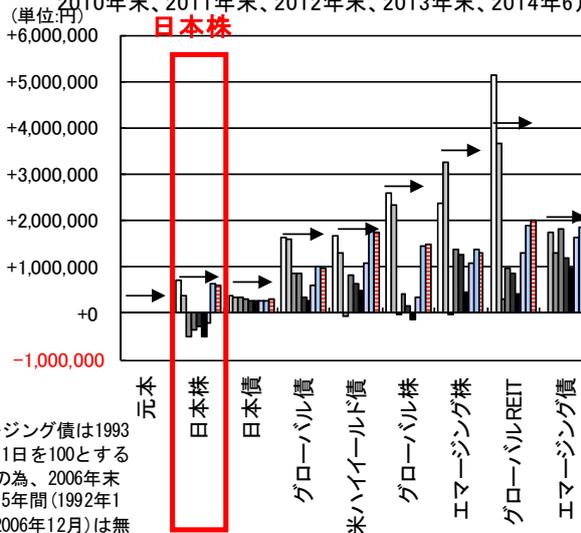
毎月末に10000円ずつ15年間購入した時の 時価

*左から2006年末、2007年末、2008年末、2009年末、2010年末、2011年末、2012年末、2013年末、2014年6月末。



毎月末に10000円ずつ15年間購入した時の 損益

*左から2006年末、2007年末、2008年末、2009年末、2010年末、2011年末、2012年末、2013年末、2014年6月末。



*エマージング債は1993年12月31日を100とするデータの為、2006年末までの15年間(1992年1月から2006年12月)は無い。

□2006/12/29 □2007/12/31 □2008/12/31 □2009/12/31 ■2010/12/31
■2011/12/30 ■2012/12/31 ■2013/12/31 ■2014/6/30

□2006/12/29 □2007/12/31 □2008/12/31 □2009/12/31 ■2010/12/31
■2011/12/30 ■2012/12/31 ■2013/12/31 ■2014/6/30

(出所: ブルームバーグより国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

(出所: ブルームバーグより国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

以上、グローバルREITやエマージング債・株、米ハイイールド債やグローバル債、日本債などのリターンの高さ、安定さがよくわかった。NISAに投資する人はこれらの資産のどれかにリスクや好み、わかりやすさに応じて投資をしてもいい(*投信なので銘柄は十分に分散されている)。多様な資産と組み合わせる分散投資もいい。NISAの基本理念のひとつに「若者や、働く世代の長期的な資産形成を応援」がある。若者や働く世代の長期的な資産形成のためには、少額で投資出来、投資タイミングも分散出来る積立投資は有力な手段となる。若者や働く世代は特に、しっかり先の資産毎リターンやリスクを見て、長期の資産形成を達成することが望まれる。

[参考ホームページ]

2014年7月1日付日本経済新聞「財務相がNISA拡充に意欲 非課税枠、年240万円検討」と言う見出しの記事…

「http://www.nikkei.com/article/DGXNASFS0102U_R00C14A7PP8000/」、2014年7月1日麻生副総理兼財務大臣兼内閣府特命担当大臣閣議後記者会見の概要…

「<http://www.fsa.go.jp/common/conference/minister/2014b/20140701-1.html>」、日本証券業協会調査…

「<http://www.jsda.or.jp>」、2014年7月6日付日経ヴェリタス…「<http://veritas.nikkei.co.jp/>」、野村證券のNISA口座投資信託買付ランキング(野村ネット&コール)…「<http://www.nomura.co.jp/nisa/nisaranking/index.html>」、大和証券のNISA口座月間買付ランキング…「<http://www.daiwa.jp/service/isa/ranking.html>」、SBI証券のNISAランキング・投資信託・保有残高…「<https://www.sbisec.co.jp/>」、楽天証券のNISAランキング・投資信託・残高…

「<https://www.rakuten-sec.co.jp/nisa/>」。

以上
(投信調査室 松尾、窪田)

本資料に関してご留意頂きたい事項

本資料は日本版ISA(少額投資非課税制度、愛称「NISA/ニーサ」)に関する考え方や情報提供を目的として、国際投信投資顧問が作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。なお、以下の点にもご留意ください。

- 本資料中のグラフ・数値等はあくまでも過去のデータであり、将来の経済、市況、その他の投資環境に係る動向等を保証するものではありません。
 - 本資料の内容は作成基準日のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
 - 本資料は信頼できると判断した情報等をもとに作成しておりますが、その正確性、完全性等を保証するものではありません。
 - 本資料に示す意見等は、特に断りのない限り本資料作成日現在の国際投信投資顧問 投信調査室の見解です。
- また、国際投信投資顧問が設定・運用する各ファンドにおける投資判断がこれらの見解に基づくものとは限りません。